



日常に 公園のある 暮らし

Living with a Park in Everyday Life



主催・発行元 | 奈良市
住所 | 〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1
問い合わせ | 都市整備部公園緑地課
電話番号 | 0742-34-4916 (直通)

編集・ライター | 大越 はじめ (toi)
デザイン | 三原 賢治 (amanojack design)
イラスト | 須蒲 有希 (amanojack design)

「日常に公園のある暮らし」の
詳しい情報はコチラ /



日常に公園のある暮らし

Living with a Park in Everyday Life

公園で、家のリビングのように過ごしてみよう。

ごはんを食べながら仲間とくつろいだり、

近くの友だちとお絵描きしたり、

みんなで音楽を楽しんだり。

なんにもせず、一人でゴロンと寝転がったっていい。



このまちで育った人も、

このまちに暮らしはじめた人も、

このまちを訪れている人も。

いろんな人が公園で出会い、

おたがいの日常が変化しあう。

そんな暮らしをはじめよう。



公園からはじまる
奈良のこれから

めざすのは、「日常に公園のある暮らし」という未来。

2019年から「まちの食卓」「春日表参道 SUN DAYS PARK」

「PARK LIFE MEETING」という試みが生まれました。

小さくも、まちが変わりつつある2022年。

5つの公園を舞台とした「トライアル・サウンディング」がはじまります。

ここから、未来を一緒に作りませんか。

まちの食卓

「公園のある暮らしをまちの日常に」

まちを大きな家に見立てると、そこに住む人はみんな家族。一つひとつの家は、それぞれの時間を過ごす部屋。道路や線路は、部屋と部屋をつなぐ廊下。そして、公園はリビングやダイニングかもしれません。芝辻町四丁目緑地を舞台に、家族が集まり、語らい、ごはんを食べ、くつろげる。そんな居心地の良い公園をめざす取り組みを、2019年に4回開催しました。

MOVIE



Instagram



facebook



Twitter



まちの食卓で

はじめたこと

公園がキャンパスになる

大学でまちづくりを学ぶ頃は、約10年ぶりに“三角公園”へ。子どものころ、芝辻町四丁目緑地のことを、そうやって呼んでいたんです。「まちの食卓」で出会ったのは、「あったら良いな」「こんなことしたいな」とワクワク話しかう大人たちでした。「まちの未来って、こうやってみんな考えていけるものなんだ」。生まれ育った地元・奈良に、もう一つのキャンパスを見つけた瞬間でした。

児林さん
(ボランティアクルー)



まちを自分たちで楽しく

「まちの食卓」でギターを演奏するわたしのもとへちびっこが来て、一緒に歌いだした。テーブル席では、「はじめまして」の人同士が、顔なじみのように話してる。そういえば、子どものころ、知らない子と一緒にドロケイしたっけ。進学で奈良市へやってきたわたし。このまちを好きになって、このまちで働きはじめて、これからも楽しく暮らしていくには……と日々考えています。自分たちの暮らすまちは、自分たちで楽しくしたいな。

金子さん
(ミュージシャン)



大阪から、奈良へ

「まちの食卓」がきっかけで、大阪から奈良に引っ越ししました。奈良が好きでよく遊びに行くうち、“いち観光客”を超えて、このまちに暮らす人とのつながりを持たら良いなと思ったんです。そんな時、クルーに誘われて。最初はとても緊張しました。でも、周りのみんなが優しく声をかけてくれたおかげで、安心して輪に入ることができました。公園いっぱい、ゆったりしあわせな空気が流れていて、その場にいられたことがしあわせだったな。

高石さん
(ボランティアクルー)



公園のすごさを再発見

芝辻町四丁目緑地の目の前で、飲食店を経営しています。個人的には愛着を感じているけれど、遊具も何もないこの公園。「そんなところに、人がやってくるのかな？」と、不安な気持ちもあったけれど、当日集まったのは予想以上の人、人、人！公園のポテンシャルってすごい……！「まちの日常を変えよう」という思いのもと、市職員のみなさんと一緒に取り組めたのもよい経験。次も、参加したいです。

宮本さん
(飲食店・店主)



春日表参道

「SUN DAYS PARK」

「日曜日の新しい商店街をつくる」

三条通ショッピングモールには、自転車や歩行者の専用道路となる時間帯があります。2020年、歩道に芝生を敷き、さらにクッションやハンモック、テイクアウトした食事を楽しめるテーブルを並べてみました。思い思いにくつろげる「まちのリビング空間」を生み出すことで、コロナ禍をきっかけとして新しい商店街をめざす取り組みです。

MOVIE



Instagram



Twitter



SUN DAYS PARK で はじまったこと

みんなで風景をつくる

その日、目に飛び込んできたのは子どもたちの姿でした。芝生の上で黒板に絵を描き、口を大きく開けて笑う。そんな、なにげない風景が生まれるまでには、たくさんの裏方がいました。ぼくもその一人になったことが、なんだか誇らしかったです。クルーとして参加したのは、「ぜひ関わってほしい」という声かけに、めっちゃ“運命”感じたから。日が沈むころ、商店街のみんなからもらった「ありがとう」の声が、嬉しかったなあ。

山本さん
(ボランティアクルー)



奈良に仲間ができる

縁あって奈良市で暮らすことになったわたし。気軽に話せる同年代の仲間がほしくて、参加しました。合間のおしゃべりで、大学生や店主のみなさんと仲良くなれて、とても良かったです。おまけに、みんな奈良愛が強い！ 今後は「SUN DAYS PARK」のような取り組みが、奈良の各地で展開されたらとても素敵だと思います。商店街の人たちと、わたしのようなクルーたち。みんなの力を少しずつ合わせられたら……いろんなまちで実現できそうです！

深川さん
(ボランティアクルー)



得意技を活かし合う

クルーとして参加してみて、わたしが印象的だったこと。それは「フラットな関係のもと、一人ひとりが“得意技”を活かし合える環境づくりが、まちづくりなんだ」ということです。休日の三条通りに集まったクルーのみなさんは、日ごろの肩書きを横に置いて、年齢や職種に関係なく意見を出し合っていました。できることを補い合って、「SUN DAYS PARK」をかたちにしていく姿は新鮮でした。

中島さん
(ボランティアクルー)



三条通りに笑顔があふれる

わたしは三条通りで雑貨店を営んでいます。コロナ禍の商店街をなんとか盛り上げたくて、店主と市役所のチームメンバーで何度も話し合って、企画をまとめていきました。それでもふたを開けてみるまでは、ほんとうに不安でたまらなかったですが、「SUN DAYS PARK」当日に芝生の上に笑顔があふれた瞬間、心から嬉しくなりました。この風景を一日限りにしたくない。三条通りの新しい日常になるまで、みんなで一緒になって継続していきたい！

福井さん
(三条通
ショッピングモール 理事)



PARK LIFE MEETING

パークライフミーティング

奈良市内には国、奈良県の管理する公園を含め、都市公園が582ヶ所あります。その活用方法を考える場が2022年2月4日に開かれました。まずはゲストスピーカー・青木純さんから東京都豊島区での取り組みを聞きました。続けて、奈良で活動する5人のゲストとともに、「これからの公園」をテーマに話し合いました。

まちに暮らす人が 日常をつくる



青木）ぼくが生まれ育った東京都豊島区に、南池袋公園という公園があります。ここは子どものころ、親に「近づいちゃダメだよ」と言われる場所だったんです。シンボルだったはずの噴水が壊れたまま放置されて、ちょっとこわいお兄さんたちがたむろして。そんな公園が、2016年に芝生の広がる公園へとリニューアルしたんですよ。でも、住民たちのイメージはかつてのまま。そんな時、縁あってこの公園に関わるようになりました。豊島区は日本一の人口密集都市なんです。そこで、南池袋公園

を「まちなかりビング」に見立てて、一人ひとりがやりたいことを自由にやれるきっかけをつくらうと。すると芝生の上で楽器を演奏する人、ヨガをする人、けん玉を披露する子どもたち。いろんな人たちが、現れたんです。

梅守）わたしは奈良市の平城・相楽ニュータウンで生まれ育ちました。もっともっと自然のリズムを感じられる生き方がしくて、山添村へ移り、2020年からちょっと不自由なホテル「ume.yamazoe」を営んでいます。今日、南池袋公園で思い思いに過ごすみなさんの姿を聞いた感想なんですけど……「そうか、公園って外なんや」と（笑）。すごい当たり前のことを、改めて感じました。

青木）そうそう、公園って外なんだよね。人目にふれることで「楽しそう！ 何してるんですか？」と会話が生まれたり、「わたしも何かはじめようかな」と心動く人がいたり。そうして同じまちに暮らす人と



人の間で、化学反応が起きていく。まちの日常をつくるのは、そこに暮らす人たちなんです。

梅守）気兼ねなく過ごせる場所が「家の中」じゃなくて、「家の外」にあるってすごい。公園にいと、土の匂いや風を感じられる。そのおかげで「自分はここにいていいんだ」と心が安らぐ面もありますよね。

コミュニケーションを あきらめない

中川）中川政七商店の十三代・中川政七です。奈良に魅力的なスモールビジネスを生み出す

「N.PARK PROJECT」に取り組んでいます。これは、“お店の視点”からまちを元気にするプロジェクトです。一方、青木さんは“暮らしの視点”でまちと関わっているんですね。これは、地の人だからできることだと思います。

中川）南池袋公園での日常が変化した理由を分析してみたいです。まずは、「まちなかりビング」というコンセプト。それからなんと言っても、青木さんたちの「コミュニケーションをあきらめない」姿勢によるところが大きいのでは？



青木 最初のうちは、「まちなかりビング」という言葉に失笑する人もいました。「夢物語ですね」って。そんな“夢物語”を形にしていく過程は、とにかく対話の積み重ねでした。どうやったら公園で音楽が演奏できるんだろう。どうやったら子どもたちが気持ちよく芝生で過ごせるんだろう。どうやったら公園で結婚式ができるんだろう……。この4年間で、ぼくの髪はずいぶん白くなりました(笑)。でも、生まれ育ったまちだから、コミュニケーションをあきらめたくなかったんです。

中川 同じく、藤岡さんも地の人ですね。2011年から「紀寺の家」を営まれています、活動の背景はどんなものだったんですか？

藤岡 ぼくは、ならまちの町家で生まれ育ちました。でも、大人になるにつれ、町家がどんどん風景から消えていくんです。そのことに、自分の身が引き裂かれるような感覚があって。「大好きなものを残したい」というのが、ぼくの原点です。



青木 2018年に藤岡さんと出会った時に「どれだけ素敵な物件があっても、ライフステージに見合ったまちの機能が伴っていないと、人は転出してしまう」という、豊島区での話をしたんです。

藤岡 ええ。同じことが、町家にも言えたんです。それで、2019年から公共空間の活用に取り組みました。この先も奈良が安心して住みたい、住み続けたいまちであってほしくて。

公園がまちでの居場所になる

青木 最近、30年後の自分を想像することがあって。仕事は落ち着いて、子どももすっかり大人に



なって……。おじいちゃんになったぼくは、ひょっとしたら毎日家でひとりぼっちかもしれない。でも、不安じゃないんです

よね。だって、きっと公園に行けば、いつものみんなと顔を合わせられるから。いくつになっても、元氣も刺激も、もらえるんじゃないかな、って。

坂本 ぼくは2006年に東吉野村へ移り住んで、2015年にコワーキングスペース「オフィスキャンプ東吉野」を立ち上げました。この場所が呼び水となって、ここに移住する人も増えました。それで、うちの村には地区ごとにお寺や神社の掃除があるんですけど、その時間が、地区のみんなの交流の時間になっています。

梅守 山添村もそうです。「ume,yamazoe」では、お客さんに提供する食材を、近所のみなさんから買わせてもらってます。野菜を持ってきたおばあちゃんが、「あんたの顔見たくて来たわ」と声をかけ



てくれたり、おじいちゃんが頼んでもいないのに、草刈りを張り切ってくれたり。ここを、日々の生きがいに感じてくれているのかな。

生きていることを楽しむ

青木 今回は、「くるみの木 一条店」を会場として使わせてもらいました。「くるみの木」には、どこか公園のように感じられるところがあります。訪れた人が、くるみの木の下でそれぞれ気持ちよく過ごしているような。オーナーの石村由起子さん、長い間このまちを見続けてきて、いかがですか？

石村 さっき、ふと床を眺めていて「ああ、この建物も時代を感じるようになったなあ」と思っていたところ。「くるみの木」がある法蓮町の風景も、大きく様変わりしましたね。オープンしたばかりの頃は、周りに田んぼがまだまだいっぱいあって。夜になると外は真っくら。「こわいな、こわいな」と不安な気持ちでひとり、ケーキを下ごしらえしていましたね。それからこの辺りも開発がはじまりました。パーっと人が来て、パーっと家が建って、新しく公園ができて。

青木 なるほど。「くるみの木」を訪れる人は、変わ

りましたか？

石村 そんなに。でも、生きていることを楽しむ人が増えたような。それはもう暮らしであったり、お出かけであったり、勉強であったり。「人」ですよー、すべて。

青木 ですね。そういえば、中川さんが運営するコワーキングスペース「JIRIN」を訪ねた時も、屋根のある公園みたいだな、と思ったんですね。



中川 石村さんの話に续くと、「人」ですね。「くるみの木」にも「JIRIN」にも、ビジョン(未来像)があって。その像に共感する人同士が自然と集まって、影響しあって、変化が生まれていくということ。奈良市のこれからの公園では、誰が、どんなビジョンを描いていくんでしょうね。

坂本 グランドビジョンを用意しておいて……。例えるなら、ぼくたちがつくるのはキャンパスだけ。そこに絵を描くのは、そのまちに暮らす人たち。そんな道もあるんじゃないかな。

青木 そうですね。公園の数だけ、ビジョンがあっても良いですよ。

石村 これは夢物語かもしれないんですけどね……。わたしだったら、公園ごとに特徴のあるお店があったら、巡りたくなるなあ。「この公園では小屋でビザがいただける」とか「土日にあの公園へ行くとおいしいコーヒーが飲める」なんてね。

青木 夢物語じゃありません。なんでもできますよ、公園で。まだまだ話したいところですが、時間がありませんね。ぼくは、奈良でのコミュニケーションもあきらめたくない。また集まりましょう。今日がはじまりです。

日常に公園のある暮らし

公園があることで、市民一人ひとりがより豊かになる。

そんな、市民の暮らしによりそう公園をめざして、

奈良市が動きはじめています。



Point
01

多様な主体との連携

地域みなさんと連携し、市民が公園づくりに関わる機会の創出により、地域性の高い公園づくりをめざします。

Point
02

地域のニーズに寄りそった柔軟な公園利用のルールづくり

多くの公園で制限されている事項について、地域の意向に基づいたローカルルールをつくり、一人ひとりのニーズにそった柔軟な公園利用を実現します。

Point
03

民間事業者のノウハウ活用

民間事業者がそのノウハウを活かし、都市公園の多機能化を図り、高い市民サービスの提供を実現します。

— 奈良市の公園の **今** —

奈良市にある都市公園

582ヶ所

国、奈良県の管理する公園を含む／令和3年4月1日時点

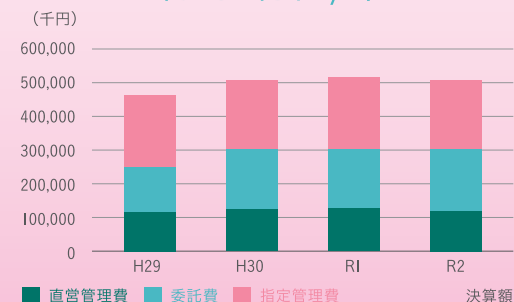
市民との協働により、維持管理されている公園

168ヶ所

グリーンサポート制度に登録されている公園の数です／令和3年4月1日時点

公園の維持管理にかかるお金

約5億円/年



日常に公園のある暮らしを、 一緒にはじめませんか？

グリーンサポート制度

地域の団体に報奨金を交付し、1年を通じて公園の美化、維持管理及び公園施設の点検を行っていただく制度です。市民との協働関係を築くこと、そして市民のみなさんが公園を快適かつ安全に、愛着をもって利用いただくことを目的としています。

※168の公園が登録されています(令和3年4月1日時点)

[詳しくはこちら](#)



右京近隣公園グリーンサポートのみなさん
左から寺尾さん、大植さん、肥後さん、山本さん、熊本さん、中嶋さん

公園の先輩に聞いた！公園活用のヒント

Q.01 気持ちのよい公園ですね。

■寺尾さん

ここも20年前は、とにかくひどい公園だった。犬のフンだらけで、樹木がうっそうと茂って、夏になると蚊が出る、夕方になると痴漢が出た。草ぼうぼうの砂場には水たまりがあって、もはや“泥場”状態。どうにかしたくて、2003年に近所の仲間たちを誘って草刈りしたのがはじまり。公園は、手をかけた分だけ、生まれ変わるよ！

Q.03 みなさんの合言葉はありますか？

■中嶋さん

「公園は見通し」ですね。グリーンサポート制度に登録した当時、担当していた公園緑地課の職員から寺尾さんが聞いた言葉だそうです。伸び放題になっていた樹木を整え、こつこつゴミ拾いをしていくことで、だんだん見通しがよくなっていきました。今では近所の家の窓から、遊ぶ子どもたちを見守れるまでになったんですよ。

Q.05 今後、公園でやりたいことは？

■中嶋さん

バルや演奏会を開いて、地域の活性化に関わる取り組みができれば。次の世代の仲間たちとも、一緒に活動していけたら。これからも、要望を出さずじやなくて、自分たちで働きかける姿勢を忘れずにいたいな。

Q.02 公園はどう生まれ変わりましたか？

■みんな

子どもたちの居場所になりました。幼いころって、ちょっとやんちゃな遊びをしたいでしょう？そんな、生まれもったアドベンチャースピリッツを安心して発揮できる冒険の場所が公園なんですね。子どもたちが砂場で飛び跳ねる姿や、ときおり聞こえてくる笑い声は、ぼくらの楽しみでもある。そりゃあもう、全部嬉しいね。

Q.04 みなさんにとって公園とは？

■大植さん

人と出会える場所。個性豊かな経歴のグリーンサポートのみんなとは、いろんな話題で話が尽きないな。

■山本さん

健康増進の場所。作業を通して、足腰が鍛えられるので。

■肥後さん

勤労奉仕できる場所。仕事で培った経験を活かして公園が綺麗になると、嬉しくなる。

■熊本さん

何十年も暮らすまちの、新しい景色を発見できる場所。見通しが良くなった公園で迎える初日の出と、西に沈む満月は今も胸に焼きついている。

奈良市は「日常に公園のある暮らし」を、市民のみなさんとともにつくっていきたいと考えています。そんな公園に関わることができる各種制度を紹介します！

トライアル・サウンディング制度

公共空間のさらなる魅力の向上や活性化を図るとともに、効果的な利活用の方法を探るため、暫定利用を希望する皆様の提案を募集し、一定期間、実際に使用してもらう制度です。

[詳しくはこちら](#)



目 標

奈良市は「公園で何かやってみたい」という民間企業や地域の方々とともに、公園の新しい使い方を一緒に考え、「日常に公園がある暮らし」をつくっていくことを目指します。

実施期間

2022年3月30日(水) → 2023年3月31日(金)

対象の方

公園で何か楽しいことを
したいと考えている方

まちづくりや起業に
興味を持っている方

奈良でもっと楽しく
暮らしたいと考えている方

上記に該当する民間企業、NPO法人等の法人、個人事業主、任意団体等の皆様。

※任意団体とは、仲間等が同じ目的を持って集まってつくる、法人格を持たないグループです。例えば、ヨガをする目的で何人かが集まったようなグループが該当します。

トライアル・サウンディングの実施例

フリーマーケット・飲食(キッチンカー含む)等のマルシェイベント
ヨガやキッズダンス教室 / プレーパークイベント など



対象公園

まちづくり50周年を迎える近鉄高の原駅を中心とした平城・相楽ニュータウン内の公園をモデルとしてトライアル・サウンディングを実施します。

平城第3号近隣公園
(右京3丁目18)

右京3丁目1号街区公園
(右京3丁目21)

平城第4号近隣公園
(神功3丁目6)

神功四丁目緑地
(神功4丁目4)

右京3丁目2号街区公園
(右京3丁目9)

事業の流れ

